

お宝拝見！ ⑥北村今三の木版画「阪神パーク」



9月18日から28日まで、原田の森ギャラリー(兵庫県立美術館王子分館)で関西学院大学絵画部OB弦月会による創立100周年記念展が開催されました。1913年頃から活動を始めていた「弦月画会」の正式発足は1915年とされています。関西学院の創立125周年にあわせ、1年繰り上げて行われた同展には145人の作品170点が出品されました。学院史編纂室も所蔵作品の貸し出し等で協力しました。

OB弦月会事務局の佐々文章さんから同展への協力を求められた時、大正時代に高等学部(商科)で学んだ北村今三と春村ただをの作品を2人の母校である関西学院は1点も所蔵していないという壁にぶちあたりました。幸い、春村に関しては、神戸市立小磯記念美術館の金井紀子さんが個人でお持ちの版画を貸して下さることになりました。金井さんは、昨年、同館で開催された特別展「関西学院の美術家～知られざる神戸モダニズム～」を企画された学芸員です。「北村さんと春村さんの友情を考えると、2人の作品はどうしても並べて展示したい」と、佐々さんは私に熱く語られました。その思いと2人の友情に応えるには、作品を探し出し、私自身が購入するしかないと思いました。数年前、神原浩のエッチングがヨーロッパで売られていたと金井さんからお聞きしたことがありました。ヨーロッパには関学OBの芸術作品を理解してくれる人がいる、ヨーロッパで探せば必ず見つかる、私は確信しました。

案の定、オランダで売られていることがわかりました。早速画商に連絡すると、買い付けの仕事で来日する際、作品をお持ち下さるとのお返事をいただきました。現物を見て、気に入ったら購入すればいいのです。

5月17日午後5時半、オランダ人画商と京都のホテルで待ち合わせました。「身長が197cmあるので、すぐおわかりになるでしょう」とメールにありました。ドキドキしながら、約束時間の10分ほど前にロビーに到着すると、2メートル近い長身の欧米人男性が目にとまりました。しかし、アメリカ人のように見えたので、声をかけずに様子を見ることにしました。少しすると、俳優の田村正和を思わせる長髪、長身の男性が風のように現れました。知的でエレガントな雰囲気漂わせています。「この人に違いない」。そう思って、声をかけました。

「日本の大正時代に関心があります。特に創作版画、三紅会が興味の中で、あとは日本のアールデコが好きです」。ライデンにある日本博物館のシーボルトハウスに店を出しておられるその画商は、私にこう自己紹介されました。三紅会で活躍した神原浩、北村今三、春村ただをの3氏が関西学院出身であることを説明すると、話が弾みました。最後に、「素晴らしい出会いでした」と、固く握手してお別れしました。

こうして、木版画「阪神パーク」がオランダから里帰りしました。後日、このオランダ人画商から、神原浩のエッチングがアメリカで破格の値段で売られているとの情報を得ました。すぐさま連絡を取って、航空便で送ってもらいました。この調子でいくと、我が家が創作版画美術館になる日も遠くないかも知れません。

池田裕子(学院史編纂室)

『学院史編纂室便り』第40号(2014年12月10日)

関西学院 学院史編纂室 〒662-8501 西宮市上ヶ原1-1-155

TEL: 0798-54-6022 FAX: 0798-54-6462

<http://museum.kwansei.ac.jp/archives/>

4月20日よりURL変更!